

(1) 産業と環境

【現況と課題】

- 本町における自然環境（海、河川、池沼、里山等）は、生活、産業面の活動から多様な影響を受けていますが、大きな工場の少ない農業中心の地域です。
- 近年、地球規模の気候変動や生物多様性保全といった、自治体の枠を越えた環境課題への対処を求められています。持続可能な社会を築いていく上で、良好な環境の保持は欠かせない要件です。
- 環境破壊は人間の利便性を求めた結果引き起こされたことと考えられます。環境再生もまた3R（注）を意識した環境産業、環境ビジネスによって推進される時期にあります。一宮町も企業、住民、行政が協力して、環境に与える負荷の少ないまちづくりを推進する必要があります。

【基本方針】

環境対策は広域での取り組みが必要であり、千葉県、周辺市町村、経済団体、住民と密接に連携し、地球温暖化、地域気候変動対応、公害対策、生物多様性や自然景観や歴史文化環境の保護保全を推進します。これらの課題の取り組みに関しては、情報提供を通じて地域環境意識の向上を促進し、自然環境にやさしいまちづくりを推進します。

【計 画】

① 各産業の取り組み支援

- 商工会、農協等の経済産業にかかわる団体とも連携し、各産業分野での次のような取り組みを官民協力体制のもとで支援します。

（産業観光課・都市環境課）

農林業分野	用排水環境の整備、有機農法の普及促進、省エネ対策、耕作放棄地対策、農業・林業系廃棄物の3R化。
土木・建設業	開発整備にかかわる適切な環境アセスメントの実施への協力、省エネ対策、廃棄物の3R化対策（建設資材、残土処分など）。
工業	省エネ・省資源対策、廃棄物の3R化、公害対策。
商業・サービス業	店舗その他、商業施設における省エネ、省資源対策。
商店街	エコ商店街のビジョン形成、街路・施設・景観の改善、エコ化・省エネ、省資源化、遊休地の緑地化、空き店舗の活用。
公共機関	学校、病院、その他の公共機関・施設での環境対策の推進。

*3Rとは——循環型社会の基本原則としてあげられているのが3Rです。3つのRとは「廃棄物の発生を少なくする（リデュース）」「一度使って不要になった製品や部品を再利用する（リユース）」「出た廃棄物を再利用する（リサイクル）」のこと。

(2) 環境保全

【現況と課題】

- 本町の自然環境の特色は、海洋性気候のもと、温暖な気象条件に恵まれていることにあります。多様な自然景観を持つ海岸地域、丘陵地域（里山）、一宮川下流・干潟は、「県立九十九里自然公園」に指定されています。7 kmにおよぶ海岸の砂浜には貴重な生物が生息し、一宮川河口付近の干潟、葦原、湿地は各種の渡り鳥の営巣地として知られています。しかし海岸地域では砂浜の侵食が進み、その対策が急がれます。防災林の松くい虫被害も深刻で、防除対策と植林の継続は欠かせません。白砂青松の海岸の再生を図るため自然に配慮した環境保全の取り組みは「緑と海と太陽の町」を守るために欠かせません。一宮川河口では上流域からの廃棄物漂着が目立ち、河川環境への影響が懸念されています。
- 本町域の平地には豊かな水田が広がり、溜池、鎮守の森が点在し、緑の多い田園風景を形づくっています。丘陵地域の森には農業用溜池が点在し、丘陵間には谷津が開けています。しかし近年、丘陵地の森では、本来の植生が後退し竹林の増加が目立ち、森の荒廃が顕著で自然環境への影響が懸念されます。

【基本方針】

本町の恵まれた自然景観を適切に保全し、後世に伝えるとともに、生活、産業面での持続的な活用を図ります。砂浜の侵食対策としては地域住民の意見を反映しながら対策を推進します。房総地域特有のマキ（県木）の生垣やクロマツ（町木）や大銀杏（町指定天然記念物）や街路樹、また上総一之宮玉前神社をはじめとした神社、仏閣の緑があります。町全域の緑を保全するとともに、環境教育を通じて環境に優しい人づくりを進めます。

【計 画】

① 里山環境保全

- 町営憩いの森や洞庭湖周辺など、美しい里山を維持するため、住民協働による清掃草刈り作業を推進します。
(産業観光課)
- 軍荼利山植物群落の保全を推進します。
(教育課・都市環境課)

② 一宮川自然環境整備

- 一宮川河口付近の干潟、葦原、湿地の生態系保全のための計画づくりについて千葉県に要望していきます。
- 一宮川整備計画に合わせて拡幅工事後の一宮川の岸辺環境整備について、千葉県に協力や支援を要望していきます。

- 一宮川水質保全、漂着廃棄物については千葉県とともに環境対策を検討します。
(都市環境課)

③ 九十九里海岸自然環境保全

- 九十九里浜砂浜侵食対策を継続的に推進していきます。
- 生物多様性基本法の理念に基づき、一宮海岸景観やアカウミガメ等の九十九里海岸エリアの多種多様な生物の保護保全に努めます。
(都市環境課)

④ 水田地帯自然環境保全

- 水田所有者、関係機関と連携し、水田保護・保存、用排水環境整備を推進します。
(産業観光課)

⑤ まちなか環境整備

- 道路の街路樹や、民間の生垣（マキ）・クロマツ・大銀杏・屋敷林等、まちの景観整備は住民と協働して推進します。
(都市環境課)

⑥ 環境教育

- 「ふるさとの自然に親しむ」をテーマにして、各世代にわたる「環境に優しい人づくり」を進めます。
- 大人や子どもを対象に、セミナーやフィールドワーク等の環境教育を推進します。
(教育課・都市環境課)

(3) 自然資源

【現況と課題】

- 一宮町ならびに長生郡市を含む地域には、地域の発展に不可欠な多様な自然資源が存在します。自然資源は、自治体の枠を越えた地球環境、資源問題、生物多様性といった観点から、その保全とともに有効な活用を図ることが求められています。
- 本町と近隣地域における水資源確保は、先人たちの努力により整備された両総用水、溜池群により、当面は懸念される状況にはありません。
- 本町において特に留意すべき自然資源としては、次の3種類が考えられています。
 - i. 自然エネルギー資源（風力、小水力、太陽光、潮力、海水波力）
 - ii. 水資源（河川、溜池、両総用水、地下水）。
 - iii. 森林資源（里山地域の森、街なかの樹木等、海岸地域の松林）。

【基本方針】

地域に広く存在する多様な自然資源については、「躍動する緑と海と太陽のまち」のスローガンとしたまちづくりに配慮しつつ保全を図るとともに、地域生活、産業面での発展、今後のまちづくりの分野で自然資源を有効活用する方法の調査研究に取り組みます。

【計 画】

① 自然エネルギー

- 本町における生活・産業分野でのエネルギー長期需給、及び国等の地球温暖化対策、脱化石燃料化の動向を見定めて、化石燃料の代替として適切な自然エネルギーの利用調査を検討します。家庭、産業、まちづくりの分野での省エネ、太陽光・太陽熱利用など自然エネルギー導入の調査検討に取り組みます。

（産業観光課）

② 水資源

- 引続き本町の水資源長期需給の動向を注視しつつ、安定的な確保を広域市町村圏組合に要望していきます。

（総務課）

- 生活・産業分野での水利用にかかわる「節水対策（省資源）」、「水資源有効活用」を促進するための啓発等、継続的な活動を支援します。

（産業観光課）

③ 森林資源

- 森林の持つ多様な機能に配慮しながら、その有効かつ適正な利用、育成を図ります。里山地域の森は観光資源、水資源涵養、林業資源として、その活用を研究します。

- 海岸地域の松林や街なかの緑については、景観資源としてその活用を研究します。
(産業観光課・都市環境課)